



# パーティションイントラドメインフェデレーションの設定ワークフロー

この章では、Microsoft Live Communications Server (LCS) 2005 および Microsoft Office Communications Server (OCS) 2007 R2 を使用したパーティションイントラドメインフェデレーションの設定ワークフローについて説明します。LCS/OCS から IM and Presence へのユーザの移行の設定ワークフローについても説明します。

- [LCS を使用したパーティションイントラドメインフェデレーションの設定ワークフロー, 1 ページ](#)
- [OCS を使用したパーティションイントラドメインフェデレーションの設定ワークフロー, 3 ページ](#)
- [LCS/OCS から IM and Presence へのユーザ移行の設定ワークフロー, 4 ページ](#)
- [IM and Presence と LCS/OCS ドメイン間フェデレーション機能との統合の設定ワークフロー, 5 ページ](#)

## LCS を使用したパーティションイントラドメインフェデレーションの設定ワークフロー

次のワークフローを使用して、IM and Presence および LCS 2005 間のパーティションイントラドメインフェデレーションを設定します。

### IM and Presence の設定

- 1 パーティションイントラドメインフェデレーションを有効にする：[パーティションイントラドメインフェデレーションオプションの設定](#)を参照してください。
- 2 LCS 展開へのスタティック ルートの設定：[スタティック ルートの設定](#)を参照してください。
- 3 LCS 展開のアクセス コントロール リストの設定：[着信アクセス コントロール リストの設定](#)を参照してください。

- 4 (任意) IM and Presence および LCS 間の TLS 暗号化の設定：
  - a アプリケーション リスナーの設定：アプリケーション リスナーの設定を参照してください。
  - b TLS ピア サブジェクトの設定：TLS ピア サブジェクトの設定を参照してください。
  - c ピア認証 TLS コンテキストの設定：ピア認証 TLS コンテキストの設定を参照してください。
  - d Certificate 認証局 (CA) のルート証明書のインポート：認証局のルート証明書のインポートを参照してください。
  - e CA 署名付き証明書の要求：認証局からの署名付き証明書の要求を参照してください。
  - f CA 署名付き証明書のインポート：認証局からの署名付き証明書のインポートを参照してください。
- 5 専用ルーティング IM and Presence サーバを設定している場合、ルーティング IM and Presence サーバの不要な機能サービスを非アクティブ化する：ルーティング IM and Presence サーバでの機能サービスの非アクティブ化を参照してください。

#### LCS の設定

- 1 ポート 5060 を有効にする：LCS サーバでポート 5060 を有効にするを参照してください。
- 2 IM and Presence 展開へのスタティックルートの設定：LCS スタティック ルートが IM and Presence をポイントするように設定を参照してください。
- 3 IM and Presence 展開のホスト認証の追加：LCS で IM and Presence 用のホスト認証を追加を参照してください。
- 4 (任意) IM and Presence および LCS 間の TLS 暗号化の設定：
  - a 連邦情報処理標準コンプライアンスを LCS サーバごとに有効にする：連邦情報処理標準コンプライアンスを LCS で有効にするを参照してください。
  - b TLS 相互認証を LCS サーバごとに設定されるようにする：LCS 上での相互 TLS 認証の設定を参照してください。
  - c CA ルート証明書が LCS サーバごとにインストールされるようにする：LCS への認証局のルート証明書のインストールを参照してください。
  - d すべての LCS サーバに必要な署名付き証明書を持たせる：既存の LCS 署名付き証明書の検証を参照してください。
  - e 必要な場合、新しい署名付き証明書を要求する：認証局からの署名付き証明書の要求を参照してください。
- 5 サービスの再起動：LCS サーバでのサービスの再起動を参照してください。

# OCS を使用したパーティションイントラドメインフェデレーションの設定ワークフロー

次のワークフローを使用して、IM and Presence および OCS（2007 および 2007 R2）間のパーティションイントラドメインフェデレーションを設定します。

## IM and Presence の設定

- 1 パーティションイントラドメインフェデレーションを有効にする：[パーティションイントラドメインフェデレーションオプションの設定](#)を参照してください。
- 2 OCS 展開へのスタティック ルートの設定：[スタティック ルートの設定](#)を参照してください。
- 3 OCS 展開のアクセスコントロールリストの設定：[着信アクセスコントロールリストの設定](#)を参照してください。
- 4 （任意）IM and Presence および OCS 間の TLS 暗号化の設定：
  - a アプリケーション リスナーの設定：[アプリケーション リスナーの設定](#)を参照してください。
  - b TLS ピア サブジェクトの設定：[TLS ピア サブジェクトの設定](#)を参照してください。
  - c ピア認証 TLS コンテキストの設定：[ピア認証 TLS コンテキストの設定](#)を参照してください。
  - d Certificate 認証局（CA）のルート証明書のインポート：[認証局のルート証明書のインポート](#)を参照してください。
  - e CA 署名付き証明書の要求：[認証局からの署名付き証明書の要求](#)を参照してください。
  - f CA 署名付き証明書のインポート：[認証局からの署名付き証明書のインポート](#)を参照してください。
- 5 専用ルーティング IM and Presence サーバを設定している場合、ルーティング IM and Presence サーバの不要な機能サービスを非アクティブ化します。[ルーティング IM and Presence サーバでの機能サービスの非アクティブ化](#)を参照してください。

## OCS の設定

- 1 ポート 5060 を有効にする：[OCS サーバでポート 5060 を有効にする](#)を参照してください。
- 2 IM and Presence 展開へのスタティック ルートの設定：[IM and Presence をポイントするよう OCS スタティック ルートを設定する](#)を参照してください。
- 3 IM and Presence 展開のホスト認証の追加：[IM and Presence の OCS でのホスト認証の追加](#)を参照してください。
- 4 （任意）IM and Presence および OCS 間の TLS 暗号化の設定：
  - a 連邦情報処理標準コンプライアンスを OCS サーバごとに有効にする：[連邦情報処理標準コンプライアンスを OCS で有効にする](#)を参照してください。

- b TLS 相互認証を OCS サーバごとに設定されるようにする：[TLS 相互認証の OCS での設定](#)を参照してください。
  - c CA ルート証明書が OCS サーバごとにインストールされるようにする：[認証局ルート証明書の OCS へのインストール](#)を参照してください。
  - d すべての OCS サーバに必要な署名付き証明書を持たせる：[既存の OCS 署名付き証明書の検証](#)を参照してください。
  - e 必要な場合、新しい署名付き証明書を要求する：[認証局からの署名付き証明書の要求](#)を参照してください。
- 5 サービスの再起動：[OCS フロントエンド サーバでのサービスの再起動](#)を参照してください。

## LCS/OCS から IM and Presence へのユーザ移行の設定ワークフロー

次のワークフローを使用して、LCS/OCS から IM and Presence へユーザを移行します。

- 1 ユーザ移行ツールのダウンロード：[シスコのユーザ移行ツール](#)を参照してください。
- 2 無制限の連絡先リスト サイズおよびウォッチャ サイズを IM and Presence で設定する：[無制限の連絡先リストとウォッチャの設定](#)を参照してください。
- 3 登録要求の自動認証を有効にする：[サブスクリプション要求の自動許可の有効化](#)を参照してください。
- 4 移行ユーザの IM and Presence でのプロビジョニング：[Cisco Unified Communications Manager 上での LCS/OCS ユーザのプロビジョニング](#)を参照してください。
- 5 移行ユーザの LCS/OCS データのバックアップ：[ユーザ LCS/OCS の連絡先リスト情報のバックアップ](#)を参照してください。
- 6 移行ユーザの LCS/OCS 連絡先リストのエクスポート：[ユーザを移行するための連絡先リストのエクスポート](#)を参照してください。
- 7 移行ユーザの LCS/OCS アカウントを無効にする：[LCS/OCS でのユーザの無効化](#)を参照してください。
- 8 移行ユーザの LCS/OCS アカウントが無効になっていることを確認する：[Active Directory の更新が LCS/OCS と同期していることの確認](#)を参照してください。
- 9 移行ユーザの LCS/OCS ユーザ データの削除：[ユーザを移行するためのデータベースからのユーザ データの削除](#)を参照してください。
- 10 移行ユーザの連絡先リストを IM and Presence にインポートする：[IM and Presence にユーザを移行するための連絡先リストのインポート](#)を参照してください。
- 11 連絡先リストおよび IM and Presence のウォッチャ制限をリセットする：[連絡先リストと最大ウォッチャの最大サイズのリセット](#)を参照してください。

# IM and Presence と LCS/OCS ドメイン間フェデレーション機能との統合の設定ワークフロー



(注) このワークフローを開始する前に、LCS/OCS とのパーティションイントラドメインフェデレーションを設定し、正しく動作するようにします。ご使用の展開内でのパーティションイントラドメインフェデレーションの設定については、該当するワークフローを参照してください。

- 1 IM and Presence のフェデレーション ドメインをそれぞれ設定する：[リモート ドメインの SIP フェデレーション ドメインとしての設定](#)を参照してください。
- 2 スタティック ルートを IM and Presence の各リモート ドメインに設定する：[リモート ドメインのスタティック ルートの設定](#)を参照してください。

